月刊
原宿新聞

発行所
月刊原宿新聞社
本社／東京都渋谷区神宮前3-21-16
NK-1ビル3階
TEL03-3796-6865
FAX03-3796-6815
e-mail info@tltny.co.jp

どうなる留置場計画

六万人の反対署名運動も

東郷神社に隣接する明治通りの都有地に大規模な留置場を建設する計画は、六万人の反対署名を集めるなどの大きな住民運動に発展した。表面化からおよそ一年半が経過、いまは東京都と渋谷区、議会、住民代表らの四者協議会が交渉を継続中だ。留置場建設計画は、どうなっているのか。なぜ原宿に大規模な留置場なのか。地域住民の声とともに、この用地を巡る経緯を追ってみた。

同計画は、一昨年の十月十日。大手経済新聞のすっぱ抜きから表面化した。「原宿駅近くに大規模留置場」「東京都が計画」との見出しが躍った。内容は、この敷地に高層オフィスビルと原宿署新庁舎、留置場（六百人収容）、射撃場を建設する予定というものだった。

場所は、ラフォーレ原宿から約五百メートル新宿方面に向かったところ。明治通り沿い。現在一部が駐車場になっている。もともとこの用地は、大学（日本社会事業大学）跡の国有地だ。

昭和六十年、同大学の清瀬市移転が決定。都とともに渋谷区も緑地公園、災害時の一時避難場所の確保のため国へ用地の取得を要望したが、財政事情により断念。平成八年、都が防災施設として整備する方向で約二百九十億円で取得した。

同年一月、当時の都財務局長から神宮前町会連合会、原宿地区商店会連合会の会長宛てに「土地活用については地元住民等の意見・要望について、可能な限り取り入れるよう誠意を持って対応してまいります」との書簡が送られた。さらに渋谷区も①緑のオープンスペースとして樹木については残す②災害時に一時避難場所として活用できるオープンスペースを確保し、施設配置に配慮する③区立外苑中学校（現在の原宿外苑中学校）等近隣施設の環境に配慮した施設配置とし、商業地域の賑わいにも配慮する―など六項目を要望。東京都側から了承された。

国有地であったため土地の使用目的を明確化しなければならない。当時の計画では面積二万四千平方メートルのうち、（仮称）都市災害救助隊（八千五百平方メートル）、（仮称）災害対策後方支援センター（一万五百平方メートル）、原宿警察署（三千平方メートル）緑地（三千平方メートル）などの施設、スペースがつくられる計画だった。当時阪神大震災が発生したことなどから、都はこの都心の用地に大規模な防災本部を設置する考えであった。

平成十四年三月までに工事を完了する予定であったが、景気の変動とともに都の財政事情も悪化。工事着工に至らず用地の一部を有料駐車場として利用していた。指定された期日までに完成はおろか着工にもいたらない見込みになったため平成十三年六月、東京都は用地の使用目的の変更と指定期日の解除を関東財務局に申請、同七月認められた。

加えられた大規模な留置場建設

変更された点は、緑地、都市災害救助隊の施設は面積内容とも変わらなかったものの、（仮称）災害対策後方支援センター（一万五百平方メートル）がテナントビルの行いに誇りをもってやっているのか。公僕たる人たちが、私欲だけにとらわれていたら、人々から尊敬などされるはずもない。昔の人たちは国を想う気概と誇りがあったと思うのはただのノスタルジアだろうか。

この十七年ほどの間にワシントンDC、大牟田、福岡、東京、ニューヨーク、神宮前と流浪のように動いてきたが、子どもたちもこの街とその人たちが大好きなようだ。私にできることは限られているが、何らかの貢献ができればと、コミュニティ・ペーパーの発行を思い立った。ともに大事な「何か」を守っていきたい。

◆　◆　◆

発刊にあたり

現実みつめる冷静な目

世界貿易センタービルへのテロ事件からまる二年。当時、私たちは、マンハッタンから列車でおよそ三十分、郊外のハーツデールという住宅地に住んでいた。

第一報は日本からだった。事務所にいた私に「ツインタワーに飛行機が突っ込んだ。大丈夫か」との内容。東部時間の午前九時ごろ。事務所にテレビなどはなく、スタッフがインターネットでCNNにアクセスした。セスナが突っ込んだようだ。現地の認識は当初そんなものだった。まさかニューヨークのWTCビルに旅客機ごと突っ込むとは。私たちはもちろんのこと誰にも想像もできないことであった。

アメリカの象徴が炎上していた。スタッフとともに自宅に戻ってテレビをつけたところ、まさに南棟が崩壊するシーンが映し出された。マンハッタンに住む彼女は、歩きなれた町並みが粉塵にまみれていく姿を呆然とみていた。

海外にでてみると、みんな自分の国に誇りを持っているのを強く感じる。当たり前といえば、当たり前のことだ。二十代の後半、GW大に在籍したこともあって、南米、アフリカ、東南アジアなどいろんな国籍の友人がいた。それほど豊かではない国からきた留学生たちはある意味国を背おっていた。卒業後は母国に帰って貢献したい、彼らの共通の想いだ。

文化。それは、あらゆる国がその伝統や生きていくなかで、培ってきたものだ。文明は人間がよりよく生活していくための知恵のようなものではないか。文明が文化を蔑む事はおかしいし、どちらが上という問題でもあるまい。ただ、宗教も文化の一部であるととらえるならば、その争いは骨肉だ。欧米的な発想でみる私たち日本人とアラブ、南米、アフリカからみた米国は全く違った姿、形をしている。どちらからみてもそれは事実に違いない。真実は、どうなのかは別の問題だ。

神宮前に戻ってきて一年半。夏ごろになると、幾つかの地元の神社で小さなお祭りが開かれる。金魚すくいやたこ焼き、焼きそば、ヨーヨーすくいと昔ながらの屋台が立ち並ぶ。みんな浴衣姿。昔ながらの日本がそこにはあった。文化を守るためには労力がいる。合理性だけを追い求めたら、消え去っていくものかもしれない。全てに米国と同じになる必要はないのだ。

縁があって神宮前に住んでいる。その顔には二つの顔があってブランドやファッションなどの華やかな部分と地元に住んでいる人たちの下町っぽい温かさだ。私が好きなのは、その化粧っ気がない素顔の方。なぜかこの街は、私に生まれ育った故郷を感じさせてくれるといったら、華やかな顔しかしらない人々はそのギャップに戸惑うだろうか。

新聞をにぎわす凶悪犯罪を持ち出すまでもなく、日本の歯車はいま大きく軋んでいる。子どもたちの前にまず大人たちが襟をただささなければならない。国政を司る政治家、役人。おのおのが自分かで、培ってきたものだ。文明は人間がよりよく生活していくための知恵のようなものではないか。文明が文化を蔑む事はおかしいし、どちらが上という問題でもあるまい。ただ、宗教も文化の一部であるととらえるならば、その争いは骨肉だ。欧米的な発想でみる私たち日本人とアラブ、南米、アフリカからみた米国は全く違った姿、形をしている。どちらからみてもそれは事実に違いない。真実は、どうなのかは別の問題だ。

神宮前に戻ってきて一年半。夏ごろになると、幾つかの地元の神社で小さなお祭りが開かれる。金魚すくいやたこ焼き、焼きそば、ヨーヨーすくいと昔ながらの屋台が立ち並ぶ。みんな浴衣姿。昔ながらの日本がそこにはあった。文化を守るためには労力がいる。合理性だけを追い求めたら、消え去っていくものかもしれない。全てに米国と同じになる必要はないのだ。

縁があって神宮前に住んでいる。その顔には二つの顔があってブランドやファッションなどの華やかな部分と地元に住んでいる人たちの下町っぽい温かさだ。私が好きなのは、その化粧っ気がない素顔の方。なぜかこの街は、私に生まれ育った故郷を感じさせてくれるといったら、華やかな顔しかしらない人々はそのギャップに戸惑うだろうか。

新聞をにぎわす凶悪犯罪を持ち出すまでもなく、日本の歯車はいま大きく軋んでいる。子どもたちの前にまず大人たちが襟をただささなければならない。国政を司る政治家、役人。おのおのが自分の行いに誇りをもってやっているのか。公僕たる人たちが、私欲だけにとらわれていたら、人々から尊敬などされるはずもない。昔の人たちは国を想う気概と誇りがあったと思うのはただのノスタルジアだろうか。

この十七年ほどの間にワシントンDC、大牟田、福岡、東京、ニューヨーク、神宮前と流浪のように動いてきたが、子どもたちもこの街とその人たちが大好きなようだ。私にできることは限られているが、何らかの貢献ができればと、コミュニティ・ペーパーの発行を思い立った。ともに大事な「何か」を守っていきたい。

◆　◆　◆

（六千九百平方メートル、このうち災害対策初動要員宿舎約五十戸）に。原宿警察署の三千平方メートルの計画が五千六百平方メートルに拡張された。拡張された二千六百平方メートルが留置場部分だ。

阪神大震災では高速道路、一般道路が分断され、都心の交通は完全に麻痺。被害はビルが立ち並ぶ中心の市街地が多かった。このため都心のど真ん中に防災、犯罪抑止の拠点を建設するというのは、東京都全体の視点でみても災害、治安の維持上大切なことであろうが、なぜ大規模な留置場が街のど真ん中に必要なのか。米国などでは消防機関も民営化されている。民活を導入するのであれば、防災機関の民営化も検討されてもいいのではないのか。確かに都の財政事情の悪化が計画変更の一面の要因であろうが、一坪約四百万円（現在の相場では一坪一千万円近い）する土地に留置場を建設するのは、経済的合理性からいっても納得はできない。

神宮前地区はいわずと知れた文教地区。この跡地の裏には原外中学校の校庭がある。昼間遊ぶ子ども達の目の前に大規模な留置場をつくる必然性はいったい何なのか。隣には、東郷神社の緑が生い茂る。この街は住民運動で環境、景観の維持に努めているところだ。

「それなのになぜこの地域に日本最大の留置場なのか」という住民の声は強い。老朽化がすすんだ原宿署の移転問題は、留置場問題が解決しなければすすまない。警察の移転の遅れには住民も同情的だ。

祝・月刊原宿新聞　創刊

株式会社 ディック
林田　聡
■労働大臣許可　マネキン紹介所
東京都渋谷区代々木1-55-14 セントヒルズ代々木803
Tel:03-3378-8718　Fax:03-3379-4015

森脇仁子税理士事務所
税理士 森脇　仁子
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前1丁目10番11号 Park Axis 504
Tel:03-5410-7533　Fax:03-5410-7583

American Business Creation, Inc.
代表取締役社長　長谷　善幸
〒106-0041
東京都港区麻布台2-3-5　NOAビル15階
Tel:03-3560-7548　Fax:03-3560-7583

80年の歴史に幕
市街地再開発で生れ変る

先月26日に行われた起工式

日本で最古の旧同潤会青山アパートの建て替え事業が始まった。名称は、神宮前四丁目地区第一種市街地再開発事業。建て替え計画から三十年近く。昔におおわれた古びたアパートにお洒落なブティックが入居。表参道のシンボルだった同アパートは、およそ八十年の歴史に終止符を打ち、あらたな象徴になるため動き始めた。設計は安藤忠雄氏と森ビル設計共同企業体。

起工式は先月二十六日午前十一時から同跡地で行われた。式には石井徹神宮前四丁目地区市街地再開発組合理事長ほか、森稔森ビル社長、地元商店街代表、桑原敏武渋谷区長ら約五百人が列席した。

祝詞奏上などに続き、石井理事長、森社長らが玉串を奉奠。工事の安全を祈願した。

この後、懇親会が開かれ、このなかで安藤氏が「表参道は、世界への情報発信の街になるよう期待されている。関東大震災後、建てられた青山アパートは都市再生の見本となった。新しく生まれ変わるこの事業もお手本となるよう設計した」と挨拶した。

敷地は、約六千平方メートル。建築面積五千平方メートル。地上六階、地下六階。建物上層部の住居は三十八戸。一LDKを中心に全戸南向き。商業施設は地下二階から地上三階。地下二階には情報発信の拠点として、イベントなどが可能な多目的スペースを設置する予定。駐車場は約二百台収容。高さ二十三メートル。二年半後の平成十八年一月に完成予定だ。

10月1日は平和国際都市渋谷の日に制定

渋谷区は、昨年から十月一日を「平和国際都市渋谷の日」に指定。今年は同日、西原や代官山プラザなど区の施設を無料開放する予定。

昨年は区政七十周年ということもあって公会堂で大江健三郎氏を招き、講演会を開くとともに、区に貢献のあった人々を表彰した。

同区は平和の維持と文化の高揚を目的に条例を制定した。

12日渋谷区の敬老会 対象は約三万人

渋谷区の敬老大会が十二日午後一時から渋谷区公会堂で開かれる。

同区の六十五歳以上のお年寄りは、約三万人。例年千五百から千八百人が出席する。

今年は海老一染之助さんらが演芸を披露するなどのイベントが予定されている。最後は、出席者全員に記念品が贈られる予定。

よさこい03賑わう

「原宿表参道元気祭」スーパーよさこい2003（商店街振興組合原宿表参道欅会など主催）が先月表参道を舞台に繰り広げられた。今年で三回目。

高知市「よさこい祭り」の選抜十三チームのほか、全国よさこい祭り五十一チーム、原宿チームなど計六十六チームが出場。炎天下のなか、表参道を練り歩き沿道を埋めた人たちを喜ばせた。

よさこいパフォーマンスのほか、イベントなどが開かれ、土曜、日曜の二日間で延べ百万人の人出を集めた。

あの人この人

原宿神宮前まちづくり協議会代表幹事
半田庄司氏

神宮前の景観と環境 守るのが使命と燃える

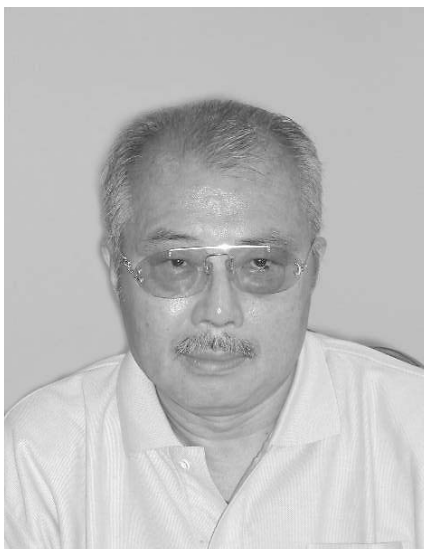
ルイ・ビィトン、グッチなど高級ブランドが軒を並べるおしゃれな街並み。通りは、樹齢を感じさせる美しいけやき並木に飾られている。表参道から明治神宮につながるこの通りは、その華やかさにおいては日本でも有数であろう。

「神宮前の景観と環境を守るのが使命」。

昨年、神宮前一丁目から六丁目までの町内会、商店会、PTA組織など全ての団体が参加。原宿神宮前まちづくり協議会が発足。半田庄司さんが代表幹事に就任した。加盟数は、二十七団体。ともすれば、利害が対立することもある住民と商店街などがその立場を超えて団結。街並みの保全に立ち上がった。こうした組織は渋谷区でも初めてのことだ。

平成十三年、半田さんは神宮前地区町会連合会会長として表参道景観環境条例案を国に提出。認可を受け渋谷区の都市計画に組み込まれた。住民運動の成果としたら、全国でも画期的なことであった。条例は、高層ビルの建設に高さ三十メートルまでの制限を設けるとともに、入居する店舗も風俗、パチンコ店、遊技場、工場、倉庫などの出店を制限。締め出した。

原宿、千駄ヶ谷、代々木は昔から閑静な住宅街であったが、連れ込み旅館も多かったらしい。このため地元の有志などが立ち上がり行政に文教地区指定を働きかけた。無事に指定を受け旅館は建て替えができなく、消えていった。昔から住民運動は盛んだったようだ。



協議会は、ほぼ毎月会合を開き、学識経験者などを招き、街づくりについて勉強するとともに、イベントなどの企画、アイデアをだしあい、参加団体に提案。意見を聞く。「ともに街づくりを考えていくことが大切」と半田さん。

昭和十二年、旧竹下町で生まれた。「いつまでもオープンな街であり続けたい。新しい人たちや文化を受け入れなければ、街も活性化していかない」。材木卸しの秋田木材株式会社を経営するとともに、貸しビル業が本業だ。趣味はオフロード。六十年前のクラシックジープなど二台を所有。人の手が一切入っていない新潟などの山道を愛車のジープで走るのが好きだそうだ。「人間としてのけじめをつけて生きること」が信条だ。六十六歳。

何でも情報コーナー

月刊原宿新聞は、このほどにぎやかに産声を上げました。創刊挨拶にも書いたように私たちがお知らせなど色んな情報をファクスで送っていただけますか。毎月十日に発行しますので、催しものなどそれ以降の開催のものは効果があるかもしれません。締め切りは毎月二十五日頃。連絡先などを明記していただければ、電話などでもお話を聞けます。

このほか、紙面に対する意見や行政、街の課題点、提言など忌憚のないご意見をお聞かせください。ご協力をお願いします。

電話　3796　6865
ファックス　3796　6815

祝・月刊原宿新聞　創刊

うなぎ　日本料理
松よし
東京都渋谷区神宮前3-25-7
Tel:03-3401-3795・03-3402-2051

TOSHI CORPORATION
有限会社 トシ コーポレーション
代表取締役 乗松　敏和
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前6-19-17 石田ビル2階
Tel:03-5468-6820　Fax:03-5468-6816

日日 Sho
神宮前
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前6-7-16 エムエスビルB1F
Tel&Fax:03-3407-1534